

太田市立史跡金山城跡ガイド施設 太田市金山地域交流センター

太田市金山町40-30 TEL.0276-25-1067

史跡金山城跡ガイド施設は、金山城跡の歴史を紹介する歴史学習の場、金山来訪者の憩いの場として、平成21年5月30日に開館しました。太田市金山地域交流センターが併設されており、両建物は建築家の隈研吾氏による設計で、外壁には金山城の石垣をイメージした石板が配置されています。



史跡金山城跡ガイド施設

開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)
休館日：月曜日(休日の場合は翌日)
年未年始(12月29日～1月3日)
入館料：無料

ガイド施設から金山城跡までのアクセス

- ▶西城(金山モータープール)まで
・徒歩15分(ハイキング道・急坂)
・車 5分
- ▶実城(山頂)まで
・徒歩25分(ハイキング道・新田神社参道ルート)

金山の社寺

新田神社 一本丸跡に鎮座

明治8年(1875)金山山頂の金山城本丸跡に、地元有志の出願により創建。郷土が生んだ鎌倉幕府討幕の立役者、新田義貞を祀る。



金龍寺 金山城主の菩提寺

金山城大手の山麓にある曹洞宗寺院。寺号は大田山義貞院金龍寺。金山城主横瀬・由良氏の菩提寺で、本堂内には新田義貞木像、本堂裏手には、由良氏五輪塔及び新田義貞公供養塔(市重文)があります。金龍寺は天正18年(1590)由良氏の常陸国牛久移封とともに同地に移転しましたが、慶長年間、この地を領した館林藩主榊原氏により再興されました。



大光院(「呑龍様」) 子育て呑龍の名で親しまれる

義重山新田寺大光院。徳川家康が、その祖とした新田義重を追善するため、慶長18年(1613)に金山南麓に創建した浄土宗寺院。関東十八壇林の一つで、寺領300石。開山(初代住職)の呑龍に由来する子育て信仰で崇敬を集めており、上毛かるたでは「太田金山子育て呑龍」の読み札で、広く親しまれています。山門の吉祥門(市重文)は徳川家康の命名と伝えられています。



万葉集に「新田山(にひたやま)」と詠まれた、秀麗な山容を見せる金山



市営駐車場のご案内(無料)

- 1大光院駐車場(120台) / ●-2 金龍寺南駐車場(30台) / ●-3 金龍寺東駐車場(20台)
- 4 東山公園親水広場入口駐車場(20台) / ●-5 臨時駐車場(30台)
- 6 ガイド施設駐車場(10台) / ●-7 金山モータープール(36台)

カーナビ検索

- ・名称検索 「金山城」または「新田神社」(群馬県)
- ・電話番号検索 0276-25-1067

*金山城跡の電話はありませんので、山麓にある「金山城跡ガイド施設+金山地域交流センター」の電話番号で検索してください。
車でお越しの場合は金山ドライブウェイ終点の金山モータープール(●-7)が最寄りの駐車場になります。

太田市へのご案内



交通アクセス・所要時間(金山城跡ガイド施設まで)

- 鉄道：東武線「浅草駅」から「太田駅」(特急りょうもう号) 1時間20分
東武線「太田駅」から徒歩50分・タクシー10分
- マイカー等：北関東道 太田桐生ICから10分・太田藪塚ICから30分
関越道 東松山ICから60分・花園ICから60分
東北道 館林ICから45分・佐野藤岡ICから50分

◆発行・お問い合わせ先◆

太田市教育委員会 文化財課

〒370-0495 群馬県太田市粕川町520 TEL.0276-20-7090

平成31年3月発行

史跡

金山城跡



◆金山城の歴史◆

金山城は、文明元年(1469)に新田一族の岩松家純によって築城され、下剋上によって城主となった由良氏の時代に全盛を迎えます。上杉謙信や武田勝頼などの有力戦国大名から10数回に及ぶ攻撃を受けませんが、金山城は一度も落城することなく、その堅固さを誇りました。しかし、小田原北条氏の謀略に落ちて支配下となっていた天正18年(1590)、豊臣秀吉の北条氏征伐により金山城は廃城となりました。



金山城の歴史を見守ってきた樹齢800年の大ケヤキ(市天然記念物)

歴史年表

- | | |
|-------|--|
| 1469年 | 岩松家純の命により金山城築城 |
| 1495年 | 明応の乱
佐野小太郎、金山城を攻める |
| 1528年 | 享禄の変
横瀬氏が実権を握る |
| 1565年 | この頃、横瀬氏は由良氏に改姓 |
| 1573年 | 由良国繁、桐生城を攻略する |
| 1574年 | 上杉謙信、新田を攻める |
| 1580年 | 武田勝頼、新田・館林を攻める |
| 1584年 | 由良国繁・長尾頭長、小田原城に軟禁される
国繁母の妙印尼は孫の新六郎(眞繁)を大将として金山城に籠城する
国繁・頭長の助命を条件に、小田原北条氏に降伏し金山城を開け渡す(桐生城に退く) |
| 1585年 | 宇津木氏久ほか数名の在番が置かれる |
| 1587年 | 清水太郎佐衛門正次、金山在番を命じられる |
| 1590年 | 前田利家ら金山城を接收。金山城廃城
由良国繁、常陸(茨城)牛久に領地を得る |
| 1613年 | 徳川家康、大光院を創建 |
| 1629年 | 献上松茸始まる |
| 1688年 | 金山、将軍家御用林となる |
| 1701年 | 元禄太田金山絵図が作成される |
| 1875年 | 新田神社、金山に創建される |
| 1934年 | 金山城跡が国史跡に指定される |
| 2000年 | 史跡金山城跡第1期整備終了 |
| 2002年 | 史跡追加指定(18.3ha→97.8ha) |
| 2009年 | 史跡金山城跡ガイド施設開館 |

日本100名城(公益財団法人日本城郭協会選定)
日本の歴史公園100選:西山公園(国土交通省選定)
関東の富士見百景(国土交通省関東地方整備局選定)



1 西矢倉台西堀切：堀切の底を石敷きの通路にしています。



2 棧道：山の斜面に丸太で組んだ通路があったと思われます。(現在は通れません)



3 西矢倉台通路：西矢倉台と馬場曲輪をつなぐ内部通路です。



4 物見台下堀切：岩盤を人工的に削って造った堀切です。



5 物見台下虎口：通路の正面に石積みがあり、その先を見せないような工夫がされています。



6 塹堀：塹堀の脇には石垣があり、堀底には通路がありました。



7 馬場下通路：通路の先を行き止まりにし、敵を惑わせます。

★眺望抜群のポイント
新田神社境内からは、東側の展望が開け、渡良瀬川や足利・佐野方面が見渡せます。



8 物見台：金山城の周囲が見渡せるため、敵の動きを見張ります。



9 馬場曲輪：大手虎口を守る兵が待機していたと思われる曲輪。(現在あずまやは平面遺構表示に変更されています)



10 大堀切：実城の手前にある、金山城の中で一番大きな堀切です。堀止の石積みもお見逃しなく。

史跡金山城跡主要部

★眺望抜群のポイント
晴れた日には、日光男体山・足尾山地・上毛三山(赤城山・榛名山・妙義山)・浅間山・八ヶ岳(一部)・秩父山地、そして関東平野最南部などを見渡すことができます。

★本丸裏の残存石垣 お見逃しなく！
新田神社の階段下から西に入り、本丸と二ノ丸の間の堀切を抜けると、残存石垣があります。北城(坂中城)・長石方面へはここから下ります。また、本丸を取り巻く腰曲輪を時計回りに進むと元の階段下(御台所曲輪)に戻れます。



11 月ノ池：大手道を上り切った、大手虎口脇にあり、訪れる者に水の豊かさを見せつけます。

★見学ルート
堀切や石垣などが連続して現れる遺構整備を実施した尾根道のルートです。石畳や石段、露出した岩盤があるので足元に注意してお進みください。



→ 金山城時代の通路
→ 園路通路
→ 管理用道路：段差のない舗装路です。車(許可車)が通ることがありますので、ご注意ください。

日本100名城スタンプ設置場所(南曲輪休憩所)
○開場 8:30~17:00 (6月~9月は18:00まで)
○年中無休(夜間は施設します)
*11~12月は日没が16:30前後となるため、探訪時間にはご注意ください。

★眺望抜群のポイント
秋~冬の晴れた日には、秩父山地の上に頭を出す富士山や、広大な関東平野の先には、相模大山、スカイツリー、筑波山を望むことができます。

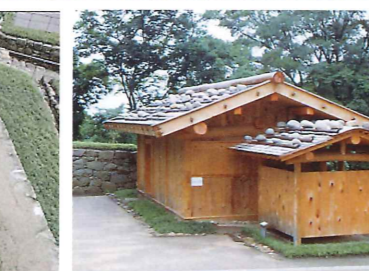
■所要時間 駐車場⇨総合案内板まで2分⇨8物見台まで約12分⇨12大手虎口まで約15分⇨新田神社(実城)まで約20分



12 大手虎口：実城へ向かうための通路を厳重に守っていた一大防御拠点。高く積まれた石垣は、敵を威圧し、城の威厳を示します。



13 石垣改修の露出展示：5回も石垣の改修工事を行っている跡が見られます。



14 石敷き遺構展示施設：石敷きされた当時のままの建物の基礎を展示しています。武器庫兼兵の詰め所だったと思われます。



15 日ノ池：戦いで勝利や雨乞いなどの儀式が行われたと思われる神聖な池。



16 見附出丸：土塁の上には柵がめぐっていました。



17 見附出丸：南虎口の土塁

金山城跡の探訪所要時間
西城(モータープール)⇨本丸(新田神社)の史跡探訪には、往復60~90分程度をお見込み下さい。距離は片道700m、標高差は50mです。



★西城・見附出丸 お見逃しなく！
西城にあるモータープール(駐車場)の上段には西城筋違い虎口があり、西へ100m進むと、見附出丸の遺構があります。



18 見附出丸から太田の街を望めます。



19 西城：園路を左に折れば、ぐんまこどもの国へ。真っすぐ進めば、実城、新田神社へ。

金山城鳥瞰図(南から) 至 太田市街